

平成19年2月7日

各位

会 社 名 株式会社 葵プロモーション
代 表 者 代表取締役社長 高瀬 哲
(コード番号9607 東証第一部)
問 合 せ 先 常務取締役 八重樫 悟
TEL03(3779)8000

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成18年11月17日の中間決算発表時に公表した業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 19年3月期個別業績予想数値の修正(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

(単位:百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	13,300	1,110	580
今 回 修 正 予 想 (B)	13,000	695	315
増 減 額 (B - A)	△300	△415	△265
増 減 率	△2.3	△37.4	△45.7
(ご参考) 前期(平成18年3月期)実績	12,285	976	538

(ご参考) 1株当たり予想当期純利益 25円88銭

2. 19年3月期連結業績予想数値の修正(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

(単位:百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	14,900	1,075	580
今 回 修 正 予 想 (B)	14,350	535	245
増 減 額 (B - A)	△550	△540	△335
増 減 率	△3.7	△50.2	△57.8
(ご参考) 前期(平成18年3月期)実績	13,371	1,002	577

(ご参考) 1株当たり予想当期純利益 20円13銭

3. 理由

当社グループを取り巻く経営環境は、引き続き厳しいものが予想されます。

即ち、広告需要は堅調に推移しているものの、メディアの新しい展開による広告媒体の多様化が確実に進み、当社が主力とするテレビコマーシャルの需要は伸び悩んでおります。勢い競合各社との受注競争も激しく、また広告主・広告会社からのより良い作品との要請にも厳しいものがあり、これまで以上に一層の経営努力を求められております。

本日、同時に公表しました第3四半期の財務・業績の概況（連結・個別）では、大型作品を中心とした制作原価率の上昇、適格退職年金制度に係る予定利率引下げに伴う退職給付費用の増加及び事務所移転等に伴い本格稼働に至らなかった連結子会社の損失が大きく、増収効果によってもカバーすることができませんでした。

上記の経営環境及び第3四半期の業績を踏まえ、前回発表予想を修正するものです。

なお、当社グループでは、広告主・広告会社の要請に応えるべく(株)葵デジタルクリエイションの分社化、(株)エムズプランニングの子会社化、(株)オプトとの合併による(株)葵オプトビジュアルマーケティングの設立、(株)モブキャスト・(株)アイチケットへの資本参加、(株)メディア・ガーデン及び(株)デジタル・ガーデンの設備充実等々を通じて、所謂プロモーション活動を「ワンストップ」で請け負うことができる制作体制を整えました。

また、期末配当金につきましては、当初公表通り、前期と同様1株当たり18円（年間23円）とする予定であります。

（注） 上記の予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しております。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上